

新建福岡・NOW

13号 2016.10.16

発行元
新建築家技術者集団
福岡支部事務局
〒815-0041
福岡市南区野間 3-9-20-4F
[ケイ・プラット内]
Tel/Fax 092-541-8128
HP : shinken-fukuoka.net

新建福岡主催 新建ゼミ開催

新しい企画が始まりました。大坪さんの担当で、会員の日頃の活動を発表し、みんなで学んでいこうという 興味ある企画です。 第1回から第3回講座が終了しました。目からウロコ！ 建築のおもしろさ！ 満載！

■第1回 建築技術者に贈る、長生き建物のススメ

講師 片井 克美氏

1.鉄筋コンクリートの劣化を防ぐ設計監理 2.建物が人を襲う 3.欠陥建築を防ぐために

3回にわたり、片井さんが日頃取り組んでらっしゃる建物のリニュアル・リノベーションの実際を、たくさんの事例とともに分かりやすく、克つ深くお話し頂きました。このゼミは、熊本で発生した大地震の直後でもあり、会員以外の参加も多く、その後の新規入会につながったと思います。多くを、ビルド&スクラップの繰り返しに終始してきた、この国の建築への姿勢を、立ち止まり、方向転換へとシフトする再確認の機会を得たと実感しています。

建物も、人も、化粧の前に、身体の回復！

報告 矢野

第2回 パッシブデザインの実際

講師 江藤 真理子氏

新建ゼミ シリーズCは、空設計工房の江藤真理子さんより、『パッシブデザインの実際』というテーマで、3回にわたり内容豊富な講義を行って頂きました。

パッシブデザインとは、自然エネルギー（太陽の光と熱、自然風、地熱、雨水など）を上手に活用・調節出来るようにし省エネルギーに寄与する高い建物性能の設計を、建物のあり方に工夫してデザインする事と、聞きました。

言葉では簡単ですが、デザイン的には地域・立地・住まい手により解も様々で、夏と冬の双方が快適性となるよう各所材料や開口部の工夫の他、機械だけに頼らず自然と調和するリズムをアクティブに楽しみながら豊かに暮らすのがパッシブな家との事。

素材特性を一つ一つ数値に落とし、計算結果をバランスさせていく膨大な計算の積み重ねでデザインされますが、江藤さんが楽しんで設計されている雰囲気も伝わりました。

報告 巻口



■第3回 伝統木構造の実践

講師 宮本 繁雄氏

このシリーズ3回の講義内容はなかなか耳にすることができるない、内容の濃いシリーズであった。明治時代以降の西洋文明の建物の在来軸組工法が明治と戦後の2回の変革で、日本で古来から営々引き継がれてきた伝統工法が現在危機に瀕している中で、現代文明に潜む自然制服、人間中心的思想の裏付けとなる在来軸組工法の根源的問題が示された。おりしも今般の熊本地震で伝統木工法の住宅が変形はそれど、倒壊が免れたことに多くの関心が呼んだ。講義では耐力と減衰性能と変形性能で地震動に対応する根本的な理論を復習された。現在の一般的構造設計は「耐力」に重きを置かれ、減衰性能や変形性能のチェックは一般的には皆無に等しい現状である。伝統木工法の「貫」や「石場建て」の減衰性能と変形性能に対応した工法であり、国はこの伝統木工法を潰そうとしている。「伝統とは」前代までの当事者がしてきたことを後継者が自覚と誇りをもって受け継ぐところのものであると最後に協調され、伝統木工法の建物を専念、普及に取り組まれている熱意を強く感じる講義であった。

報告 古川

熊本地震 全国ブロック会議

7月24、25日にかけて、新建復興支援会議の九州ブロック会議を熊本にて行ないました。24日は震源地であり住宅の倒壊などの多かった益城町の視察や、甲佐町の白旗仮設住宅で開催されていた「炊き出し＆何でも相談会」に参加し、地元の支援者の方などより被災状況や仮設住宅についてのお話を伺いました。

当日夕方よりは、熊本市民会館においてブロック会議を行い、関東、関西の会員を中心として九州の会員を合わせて30名と熊本地震支援共同センターの事務局長さんや議員さんなど地元の支援団体の方々3名の参加で短い時間でしたが状況報告や今後の支援の方法についてを議論しました。

その後の懇親会は地元野菜を使ったイタリアンレストランで、おいしい料理を食べながら、各テーブルとも遅くまで話が盛り上がりいました。

翌25日は各班に分かれて、大破した被災マンションの視察や、小川町、南阿蘇など各地の状況を確認し、今後の支援活動にどう結びつけていかを考えながら、散会する事となりました。

新建東日本大震災復興支援会議は2011年4月にでき、東日本の震災復興がまだまだという中で、熊本に地震が起るとは、思いもかけないことでした。いろいろな状況のもと、会員や支部を中心に、全国から目を向けて行くことの大切さを実感し、仕事にも、地域の安全・安心をつくる役割としても、所属する支部の活性化のためにも、何かを得た今回の視察と会合になったと感じました。

震災後の支援をすることになれない福岡支部などの私たちは、全国災対連の方や熊本地震支援共同センターの方々の動きに引っ張られて、わずかに動いた気がします。皆さんのご意見にも出た職人さんの養成が急務だとのご指摘。

それと同時に建物（特に住まい）の維持管理を教える教育も必要なのではないかと考えたりしました。

報告 鹿瀬島

全国大会 in 富山

去る8月26日(金)～28日(日)の三日間、富山市内の呉羽ハイツを会場に「2016建築とまちづくりセミナーinとやま」が開催されました。全国から170名が集い、会場は終始盛り上りました。福岡からは4名が参加。早出して北アルプス方面をさまでした。26日に無事合流しました。

全日程と講座の内容は次のとおりです。

<8/26(金) 午後>

●第1講座 『生きた教科書、砺波平野の散居村と屋敷林（カイニヨ）の役割』

地元富山の建築家天野一男さんが特徴的な散居村の集落を伝統と風土、地域経済の側面から解説してくださいました。

●第2講座 『戦争と平和と未来を見すえて生きる』 -父の遺書から-

山本厚生さんが父「山本幡男」について初めて語ってくださいました。お父さんは辺見じゅんのノンフィクション「収容所(ラーゲリ)から来た遺書」を通してその生き方が多くの人々に感動を与えた方です。希望を捨てぬ強い意志と子らへの思いが改めて伝わってきます。

●特別報告『熊本地震への取り組み』

4月に始まった一連の熊本地震の直後ということで、福岡支部から片井さんと大坪で特別報告を行いました。私たちが目の当たりにした被災の現実、報道の陰に隠れた多くの事柄を知ってもらうことの重要さを感じました。……その後、大交流会。

<8/27(土) 終日>

●第3講座 『高岡町屋など古建築を守る仕組み』

伝統建築に取り組む高岡大工若松聰さんが、高岡の重要伝統的建造物保存地区の保存事例を紹介しながら、守り伝える仕組みや可能性について紹介してくださいました。

●第4講座 『設計の標準化からうまれる住まい』

伊礼聰さんからは「設計の標準化」という建築家としては意外なテーマの講義を聞きました。標準化が当初目指していた「効率化」が経験を経て「質の向上」につながったというお話し。大変勉強になった一方で、市井の建築士にはちょっとした危機感を感じさせる、という声も聞かれました。

●第5講座 『ライトとレーモンド：人と建築の交錯』

三沢浩先生のお話しさは、ライトとレーモンドの作品を時系列で見ながらの二つの人生の交錯と不思議なシンクロについて。他所では聴くことのできない興味深くも貴重なお話しでした。

……夜はバスツアーで八尾の「おわら風の盆」前夜祭の見物。11日間続けられるというあのしつとりとした町流しを堪能しました。

<8/28(日) 半日>朝、白井晟一「呉羽の舎」の門屋を見学。

独特のストイックなフォルムとディテールに触れた後は5つの見学コースの中から岡の伝建地区を見て解散。中身の濃い3日間でした。

報告 大坪

黒部立山

「建まちセミナーin 富山」のご案内より「黒部・立山、しかも関西電力独自のルートを行けるかもしれない。」という話につけられ、このチャンスを逃すともう二度と行くことはないかも知れないという思いで、参加させてもらいました。道中は一生分の乗り物に乗ったかと思うくらいの種類の乗り物になりました。

1日目 8/24(木) 博多→富山空港(飛行機) 富山空港→富山駅(リムジンバス) 富山→立山(富山電鉄) 立山→美女平(立山ケーブルカー) 美女平→室堂(立山高原バス)



：ここで一泊(標高 2400m のみくりが池温泉)その前に立山自然保護センターのボランティアさんに周囲の自然をご案内いただく。夜は満点の星空、朝はご来光を拝み、雨天を覚悟していた私たちは感謝感謝。いったい誰のおかげ～！温泉とはいいながら、ベッドは山小屋状態。でも食事はおいしく、満足満足。ここは中高年の登山客であふれています。標高 2400m はさすがに息が苦しい。でもここまでくれば、立山は登れない山ではないかも知れない？(ああ勘違い)



2日目 8/25(金) 室堂→大観峰(立山トロリーバス) 大観峰→黒部平(立山ロープウェイ) 黒部平→黒部湖(黒部ケーブルカー)：こんな山の中にこんな巨大なダムを作るとは・・観光客向けの放水に虹がかかっています。それにしてもここらの川は流量がすごい。台風の後かと見まがうほどの流れです。電源開発を思い立つわけです。

ここからいよいよ関電見学区間です。

黒部ダム→作郎谷(トンネル専用バス) 作郎谷→黒四発電所(インクライン) 黒四発電所→欅平(専用鉄道：ここが高熱隧道+豊坑 EV+工事用トロッコ電車) ここで見学コース終了

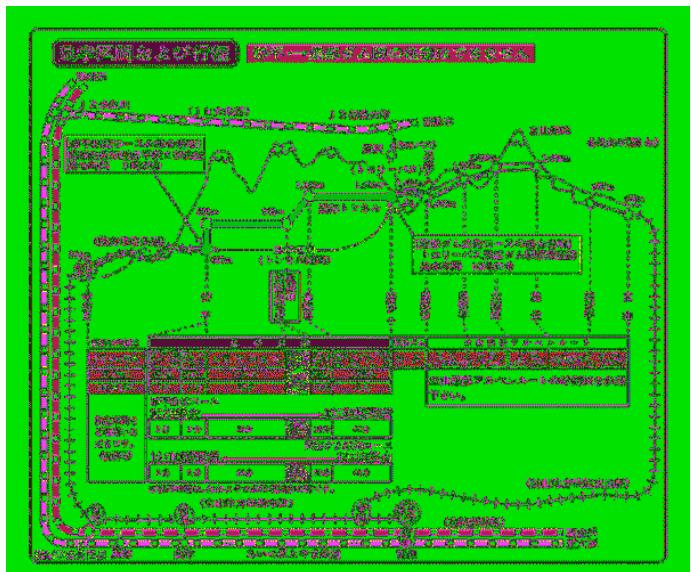
：欅平では少し散策を。道の上にせり出した巨岩の落石をよけるために、ヘルメットが用意されています。

欅平→宇奈月(黒部峡谷鉄道：トロッコ電車)：ここで二泊目(宇奈月温泉杉乃井ホテル)

：このトロッコ電車も変化に富み、紅葉の頃の美しさがうかがわれます。

黒部第三トンネルにまつわる「高熱隧道」の話を教えてくださった巻口さん、この旅にストーリーも加わり当時の人々の足跡を追いつつ、憧れの日本アルプスにも触れて、思いで深い旅ができました。ありがとうございました。

矢野さん、片井さん、大坪さんの四人で参加した珍道中でしたが、よい冥途の土産ができました。富山の人々も「この時期こんなに天気が続くのは珍しい」そういえば北陸に引っ越した友人の手紙に「弁当忘れても傘忘れるな」とありました。皆様のおかげです。



報告 渋田

新建福岡 今後の企画

*新建ゼミ好評開催中 11月16日・11月30日 ●シリーズD 「ワークショップを用いた計画手法」
ただいま募集中 講師 大坪 克也氏

*新企画 山歩き 11月5日(土)
まだまだ参加者募集中

●基山登山と温泉
巻口氏引率のもと、山登りと温泉でリフレッシュ！

*第3回 仕事を語る会 12月17日(土)
*2016年忘年会 12月17日(土)

●担当 原田 康幸氏 / 矢野 安希子
1年の反省と来る年への願いを込めて、多いに呑み語りましょう

[編集後記] 盛りだくさんだった2016年。紙面編集の未熟さと、word操作の不慣れから、富山の夏を締めくくる“風の盆”をお伝えする、大坪さん撮影の写真を掲載できず残念。富山、立山の写真上映会は、日を改めて、乞うご期待！(矢野)